

四 半 期 報 告 書

(金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく報告書)

(第58期第2四半期)

自 2022年7月1日

至 2022年9月30日

 株式会社高松コンストラクショングループ

(E00285)

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	2
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	2
3 【経営上の重要な契約等】	3
第3 【提出会社の状況】	4
1 【株式等の状況】	4
(1) 【株式の総数等】	4
(2) 【新株予約権等の状況】	4
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	4
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	4
(5) 【大株主の状況】	5
(6) 【議決権の状況】	5
2 【役員の状況】	5
第4 【経理の状況】	6
1 【四半期連結財務諸表】	7
(1) 【四半期連結貸借対照表】	7
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	9
【四半期連結損益計算書】	9
【四半期連結包括利益計算書】	10
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	11
2 【その他】	15
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	15

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年11月9日

【四半期会計期間】 第58期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）

【会社名】 株式会社高松コンストラクショングループ

【英訳名】 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 高松 浩孝

【本店の所在の場所】 大阪市淀川区新北野一丁目2番3号

【電話番号】 (06) 6303-8101 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営管理本部長 不破 徳彦

【最寄りの連絡場所】 大阪市淀川区新北野一丁目2番3号

【電話番号】 (06) 6303-8101

【事務連絡者氏名】 執行役員経営管理本部長 不破 徳彦

【縦覧に供する場所】 株式会社高松コンストラクショングループ 東京本社
(東京都千代田区神田美土代町1番地)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第2四半期 連結累計期間	第58期 第2四半期 連結累計期間	第57期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	125,980	128,807	263,907
経常利益 (百万円)	3,148	2,971	11,490
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,683	1,378	6,727
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,189	2,196	7,913
純資産額 (百万円)	116,547	122,274	121,471
総資産額 (百万円)	220,025	216,011	236,719
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	48.35	39.59	193.22
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	53.0	56.6	51.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,430	△4,698	2,513
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△1,503	△3,767	△6,547
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△2,489	△18,674	△1,179
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	72,077	40,263	67,407

回次	第57期 第2四半期 連結会計期間	第58期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	24.02	37.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、2022年4月1日付けで、グループガバナンス体制およびグループ管理体制を強化することを目的に、より効率的な経営形態の構築を目指し、みらい建設工業㈱・東興ジオテック㈱・タカマツハウス㈱を当社の子会社とするグループ内組織再編をおこないました。これまで当社・高松建設㈱・青木あすなる建設㈱を中核3社と位置付けておりましたが、本再編により当社・高松建設㈱・青木あすなる建設㈱・みらい建設工業㈱・東興ジオテック㈱・タカマツハウス㈱の中核6社体制へと移行しました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社および連結子会社）の経営環境、経営方針の概要及び経営成績の分析等は次のとおりです。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 経営成績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、行動制限の緩和等により社会経済活動が正常化に向かう動きが見られております。一方で、日米金利差拡大を背景とした歴史的な円安に起因する原材料価格や資機材価格、エネルギー価格の上昇、ウクライナ情勢の長期化に伴う経済の不安定化などに影響されて景気が低迷する恐れがあります。

公共建設投資は、引き続き国土強靱化計画による政府投資をはじめとして底堅く推移するものと見込まれておりますが、民間建設投資は、需要は底堅さを維持しているものの、受注競争の激化や資機材価格高騰等の影響により厳しい事業環境が続いており、注視が必要な状況となっております。

また、民間住宅投資は、新設住宅着工戸数が2022年5月以降月次ベースで対前年同月比3ヶ月連続の減少となり、弱含みに推移しました。更には資機材価格高騰や労務の逼迫の影響による建設コストの増加が懸念されることから、価格動向を注視する必要があります。

当第2四半期連結累計期間の受注高は177,837百万円（前年同期比23.9%増）と前期に引き続き好調に推移し、売上高は128,807百万円（前年同期比2.2%増）となりました。利益につきましては、営業利益は2,830百万円（前年同期比9.5%減）、経常利益は2,971百万円（前年同期比5.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べて18.1%減の1,378百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに帰属しない一般管理費等△2,008百万円およびその他の調整額△348百万円であります。

(建築事業)

受注高は99,476百万円（前年同期比23.2%増）、完成工事高は61,044百万円（前年同期比9.2%増）となり、セグメント利益は1,159百万円（前年同期は72百万円）となりました。

(土木事業)

受注高は53,912百万円（前年同期比31.3%増）、完成工事高は44,999百万円（前年同期比7.0%減）となり、セグメント利益は2,529百万円（前年同期比18.7%減）となりました。

(不動産事業)

不動産の売買および賃貸等による売上高は22,763百万円（前年同期比4.8%増）となり、セグメント利益は1,499百万円（前年同期比22.5%減）となりました。

② 財政状態

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ20,708百万円減少し、216,011百万円となりました。

その主な要因は、販売用不動産が6,298百万円、建設仮勘定が3,122百万円増加した一方、現金預金が27,143百万円、受取手形・完成工事未収入金等が5,479百万円減少したことによるものです。

(負債の部)

負債は、前連結会計年度末に比べ21,510百万円減少し、93,737百万円となりました。

その主な要因は、未成工事受入金が2,751百万円増加した一方、工事未払金が4,537百万円、短期借入金が17,200百万円減少したことによるものです。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末に比べ802百万円増加し、122,274百万円となりました。

その主な要因は、為替換算調整勘定が858百万円増加したことによるものです。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益1,378百万円を計上した一方、配当金の支払1,392百万円があったことにより利益剰余金は14百万円減少しております。

以上の結果、純資産の額から非支配株主持分を控除した自己資本の額は122,241百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ5.3ポイント増加し56.6%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ27,143百万円減少し40,263百万円（前年同四半期連結会計期間末残高72,077百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により資金は4,698百万円の減少（前年同四半期連結累計期間は3,430百万円の増加）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益2,970百万円、売上債権の減少5,479百万円、未成工事受入金の増加2,751百万円等の収入があった一方、棚卸資産の増加6,880百万円、仕入債務の減少4,537百万円、未払又は未収消費税等の増減額3,501百万円、法人税等の支払2,347百万円等の支出があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により資金は3,767百万円の減少（前年同四半期連結累計期間は1,503百万円の減少）となりました。これは、有形固定資産の取得3,660百万円の支出等があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により資金は18,674百万円の減少（前年同四半期連結累計期間は2,489百万円の減少）となりました。これは、配当金の支払額1,391百万円、短期借入金の減少17,200百万円の支出等があったことによるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等ならびに優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は310百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	52,800,000
計	52,800,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,818,578	34,818,578	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	34,818,578	34,818,578	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	—	34,818,578	—	5,000	—	272

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
高松 孝之	兵庫県宝塚市	8,219	23.6
㈱三孝社	大阪市北区茶屋町8番21-3001号	4,800	13.8
日本マスタートラスト信託銀行㈱ (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	2,321	6.7
高松 孝育	大阪府豊中市	2,130	6.1
㈱孝	大阪市淀川区新北野一丁目2番3号	1,226	3.5
㈱りそな銀行	大阪市中央区備後町二丁目2番1号	1,080	3.1
㈱みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	824	2.4
㈱日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	680	2.0
合同会社孝兄社	兵庫県宝塚市御殿山二丁目6番15号	680	2.0
高松コンストラクショングループ 社員持株会	大阪市淀川区新北野一丁目2番3号	553	1.6
計	—	22,516	64.7

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,810,100	348,101	—
単元未満株式	普通株式 8,478	—	—
発行済株式総数	34,818,578	—	—
総株主の議決権	—	348,101	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数40個が含まれております。

② 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（1949年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定にもとづき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)にかかる四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	67,899	40,755
受取手形・完成工事未収入金等	79,948	74,469
販売用不動産	13,759	20,058
未成工事支出金	1,422	1,470
不動産事業支出金	8,519	9,195
未収入金	3,741	2,915
その他	1,373	2,907
貸倒引当金	△82	△80
流動資産合計	176,582	151,693
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	6,118	6,223
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	1,361	1,536
船舶（純額）	696	674
土地	27,808	27,839
リース資産（純額）	151	128
建設仮勘定	5,438	8,560
有形固定資産合計	41,573	44,963
無形固定資産		
のれん	1,576	1,452
その他	914	877
無形固定資産合計	2,490	2,330
投資その他の資産		
投資有価証券	9,442	10,193
繰延税金資産	3,900	4,050
その他	2,952	2,996
貸倒引当金	△221	△216
投資その他の資産合計	16,073	17,023
固定資産合計	60,137	64,317
資産合計	236,719	216,011

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
工事未払金	28,561	24,024
短期借入金	17,200	—
未払法人税等	2,315	1,591
未成工事受入金	23,968	26,720
完成工事補償引当金	703	608
賞与引当金	3,785	4,397
その他	9,930	7,304
流動負債合計	86,465	64,646
固定負債		
社債	15,000	15,000
再評価に係る繰延税金負債	256	256
繰延税金負債	501	487
船舶特別修繕引当金	71	62
退職給付に係る負債	10,627	10,960
その他	2,325	2,323
固定負債合計	28,782	29,090
負債合計	115,247	93,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	797	797
利益剰余金	115,892	115,878
株主資本合計	121,689	121,675
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	748	699
土地再評価差額金	△1,266	△1,266
為替換算調整勘定	60	919
退職給付に係る調整累計額	201	214
その他の包括利益累計額合計	△256	565
非支配株主持分	38	33
純資産合計	121,471	122,274
負債純資産合計	236,719	216,011

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高		
完成工事高	104,267	106,043
不動産事業売上高	21,712	22,763
売上高合計	125,980	128,807
売上原価		
完成工事原価	90,464	91,524
不動産事業売上原価	18,675	19,631
売上原価合計	109,139	111,156
売上総利益		
完成工事総利益	13,803	14,519
不動産事業総利益	3,036	3,132
売上総利益合計	16,840	17,651
販売費及び一般管理費	※ 13,711	※ 14,820
営業利益	3,128	2,830
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	69	70
出資金運用益	—	85
償却債権取立益	3	83
その他	99	104
営業外収益合計	176	347
営業外費用		
支払利息	126	112
その他	30	94
営業外費用合計	156	206
経常利益	3,148	2,971
特別利益		
固定資産売却益	3	0
投資有価証券売却益	6	—
特別利益合計	9	0
特別損失		
固定資産除却損	5	1
その他	1	—
特別損失合計	7	1
税金等調整前四半期純利益	3,150	2,970
法人税、住民税及び事業税	1,448	1,738
法人税等調整額	16	△141
法人税等合計	1,464	1,596
四半期純利益	1,685	1,374
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,683	1,378

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,685	1,374
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	166	△49
為替換算調整勘定	160	513
退職給付に係る調整額	76	13
持分法適用会社に対する持分相当額	100	345
その他の包括利益合計	503	822
四半期包括利益	2,189	2,196
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,187	2,200
非支配株主に係る四半期包括利益	1	△4

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,150	2,970
減価償却費	675	643
のれん償却額	123	123
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△128	△94
賞与引当金の増減額 (△は減少)	567	611
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	133	359
受取利息及び受取配当金	△73	△73
支払利息	126	112
出資金運用損益 (△は益)	—	△85
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,232	5,479
棚卸資産の増減額 (△は増加)	2,639	△6,880
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,278	△4,537
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	4,249	2,751
未収入金の増減額 (△は増加)	△77	708
未払又は未収消費税等の増減額	596	△3,501
その他	△1,343	△919
小計	6,129	△2,333
利息及び配当金の受取額	73	74
利息の支払額	△127	△112
法人税等の支払額	△2,695	△2,347
法人税等の還付額	50	20
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,430	△4,698
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,421	△3,660
無形固定資産の取得による支出	△92	△94
投資有価証券の取得による支出	△6	△108
投資有価証券の売却による収入	18	—
出資金の分配による収入	—	98
その他	△1	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,503	△3,767
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,000	△17,200
リース債務の返済による支出	△93	△81
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△1,391	△1,391
非支配株主への配当金の支払額	△4	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,489	△18,674
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	△3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△547	△27,143
現金及び現金同等物の期首残高	72,625	67,407
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 72,077	※ 40,263

【注記事項】

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いにしたがって、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費の主要な費目および金額は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
従業員給料手当	5,527百万円	5,741百万円
賞与引当金繰入額	1,634	1,849
退職給付費用	241	204
貸倒引当金繰入額	△23	△7

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金預金勘定	72,824百万円	40,755百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△747	△492
現金及び現金同等物	72,077	40,263

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月12日 取締役会	普通株式	1,392	40.0	2021年3月31日	2021年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月10日 取締役会	普通株式	800	23.0	2021年9月30日	2021年12月7日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月11日 取締役会	普通株式	1,392	40.0	2022年3月31日	2022年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月9日 取締役会	普通株式	800	23.0	2022年9月30日	2022年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	建築事業	土木事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	55,884	48,382	21,712	125,980	—	125,980
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,306	12	687	2,006	△2,006	—
計	57,191	48,395	22,399	127,986	△2,006	125,980
セグメント利益	72	3,110	1,935	5,118	△1,989	3,128

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,989百万円には、各報告セグメントに帰属しない一般管理費等△1,885百万円およびその他の調整額△103百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	建築事業	土木事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	61,044	44,999	22,763	128,807	—	128,807
セグメント間の 内部売上高又は振替高	3,209	31	697	3,938	△3,938	—
計	64,253	45,030	23,461	132,745	△3,938	128,807
セグメント利益	1,159	2,529	1,499	5,188	△2,357	2,830

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,357百万円には、各報告セグメントに帰属しない一般管理費等△2,008百万円およびその他の調整額△348百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			
	建築事業	土木事業	不動産事業	計
一時点で移転される財およびサービス	2,333	765	13,110	16,209
一定の期間にわたり移転される財およびサービス	53,551	47,617	1,628	102,797
顧客との契約から生じる収益	55,884	48,382	14,739	119,007
その他の収益	—	—	6,973	6,973
外部顧客への売上高	55,884	48,382	21,712	125,980

(注) 契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約において、代替的な取扱いを適用し完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しているものは「一時点で移転される財およびサービス」に含めて表示しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			
	建築事業	土木事業	不動産事業	計
一時点で移転される財およびサービス	1,556	944	13,354	15,855
一定の期間にわたり移転される財およびサービス	59,487	44,054	1,704	105,246
顧客との契約から生じる収益	61,044	44,999	15,059	121,102
その他の収益	—	—	7,704	7,704
外部顧客への売上高	61,044	44,999	22,763	128,807

(注) 契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約において、代替的な取扱いを適用し完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しているものは「一時点で移転される財およびサービス」に含めて表示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	48円35銭	39円59銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,683	1,378
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,683	1,378
普通株式の期中平均株式数 (千株)	34,818	34,818

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2022年11月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- ① 中間配当による配当金の総額 800百万円
- ② 1株当たりの金額 23円00銭
- ③ 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2022年12月6日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いをおこないます。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月9日

株式会社高松コンストラクショングループ

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員 公認会計士 桃原 一也
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 中村 美樹
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社高松コンストラクショングループの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社高松コンストラクショングループ及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。